

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 381 件

2013 年 11 月



支える医療としての小児緩和ケア

緩和ケア普及室 三輪 高明

平成 25 年 4 月新たに緩和ケア普及室が設置されました。専従室員は医師、看護師各 1 名、室員は医師 3 名、看護師 3 名、薬剤師、臨床心理士、保健師、MSW 各 1 名、そして今話題のベイリーとハンドラーです。

創立 44 年目を迎えた当センターは、開設以来小児包括医療を標榜し、院内の豊富な人材、組織を含めたチーム医療でこども、家族のケアに当たってきました。小児専門医療施設として、治す医療と支える医療を高いレベルで提供するべく継続的に努力して参りました。小児医療が高度化し、病気とともに生きていくこどもとご家族が増えてきました。治る病気が増えていくことは、当センターにおける治す医療の比重が増してきたことを意味します。

小児緩和ケアは次のように定義されます。“生命を脅かす病態 (life-threatening illness) の小児および若者のための緩和ケアとは、身体的、精神的、社会的、霊的 (スピリチュアル) 要素を含む包括的かつ積極的なケアへの取り組みである。そしてそれはこども達の QOL の向上と家族のサポートに焦点を当て、苦痛を与える症状の管理、レスパイトケア、終末期のケア、死別後のケアの提供を含むものである” —これは従来から我々と地域が協働して実践してきた支える医療そのものではないでしょうか？

緩和ケア普及室の設置は、センターとして“治す医療”と同様に“支える医療”も更に充実させていくとの決意表明であります。小児医療の高度化、移行期医療の増加、多様化に伴い、今後支える医療—緩和ケアの重要性、多様性は確実に増していくことが予想されます。また療養病床の不足、医療経済の逼迫、こどもの権利と尊厳を守る理念などを背景にして、緩和ケア提供の中心は地域にシフトすることは明らかであります。病気とともに生きる子どもとその家族が、病院から地域、在宅に至るいかなる場所でも、安心して支える医療を受けられるようなシステム設計、小児緩和ケアの普及とその質の向上のために緩和ケア普及室は活動していきます。そのためにも連携施設の皆様のご指導、ご支援、ご提言が是非とも必要です。お気軽にご連絡ください。よろしくお願いいたします。



こどもたちの「げんき」と「えがお」のために

母子保健推進室 兼 小児がん相談支援室 園田 永子

「緩和ケア」という言葉から皆様は何をイメージされますか。

こども医療センターの定義は「病気のこどもたちとその家族の QOL の向上、そのための家族支援」という広い内容です。私は今年異動してきました。前任地の保健福祉事務所で、保健師として超高齢社会の問題に取り組んでいたのも、「緩和ケアは終末期医療」という認識しかなく、とても新鮮に感じました。

こども医療センターには、成長発達していく人生の重要な時に、病気や治療のため入院を余儀なくされ、痛みや苦痛と闘っているこどもたちがいます。ご家族も病院に足繁く通ってくださいます。ご本人もご家族も頑張っているらしやいます。そして、病院スタッフは、こどもたちが 1 日も早く退院ができて、ご家族も含めて快適に生活できるように、よりよい医療と支援を続けています。まさに緩和ケアを毎日実践しているのです。

地域で保健活動をしていた保健師としては、現在長期に及ぶ入院で行っている医療が、家族や友人と過ごせる家庭で受けられる世の中に早くなることを願っています。そのためには、地域で対応していただける医療機関、訪問看護ステーション、幼稚園や学校等教育機関、ご家族が気軽にご相談できる行政機関・支援機関、ご本人やご家族が気持ちよく過ごせる場所などなど、たくさんのご協力や支援が必要です。また「治療のためには入院するしかない」と家族が思ってしまう世論を変えていくことはとても大切なことです。これは簡単なことではありません。今までたくさんの方が努力を積み重ねています。私もその仲間に入り、病院の基本理念「あなたの“げんき”と“えがお”のためにみんなでちからをあわせます。」をモットーに緩和ケアチームの一員として取り組んでいきます。



配膳の時間によやく間に合い、重心施設に配膳し楽しいバイキング給食の開始です。

開始にあたって重心施設のスタッフの皆様から温かい拍手をいただき、栄養管理科スタッフはもう感激で一杯、早くも実施して良かった！という思いがこみ上げてきました。

このようなイベントは栄養管理科単独では行えません。重心施設の看護師さん、生活支援課の職員の方々、養護学校の先生などさまざまな職種の皆さんの協力や、セクション間の連携があって成り立っています。子どもたちのために心がひとつになれる。すばらしい環境がこども医療センターにはあります。

さて、ここでメニューの紹介をしたいと思います。

主 食・・・白粥、オムライス、ラーメン

おかず・・・コロッケ、ハンバーグ、ラザニア、カレー、白身魚のムース、茹で野菜のサラダ、人参グラッセ
スープ・・・コーンスープ

デザート・・・レアチーズムース、杏仁豆腐、カップケーキ、マンゴーヨーグルト

食事が始まると、びっくりするくらい良く食べてくれました。食事の介助をするスタッフも患児の嗜好をよく把握していて、的確に好きなメニューをトレーに載せていきます。バイキングなので多めに作っていったのですが、次々と料理が減っていきます。

こんなにたべられるの？食べても大丈夫なの？とこちらが心配してしまうほどです。

本当に、どこにこんな食欲があったのか、それとも普段の食事が・・・と、思わず心配になってしまうほどです。ただ、食べ終わった後の満足な顔を見ていると、まあ、そんな事はどうでもいいかな。本当にバイキング給食をして良かったーとつくづく思いました。



食事は、生きるために必要なエネルギーや栄養素の摂取が一番の目的ですが、ただそれだけではありません。食事は生きる楽しみも与えてくれます。まさに、これがバイキングのテーマなのです。食を通して患児と家族や病棟スタッフが楽しい時間を共有することができる。大変だけれども得るものも多くあります。多職種が協働して患者さんのために、いま何ができるのかを考え、そしてその実現に向かって進んでいくことが大切だと思います。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第22回 心臓血管外科勉強会

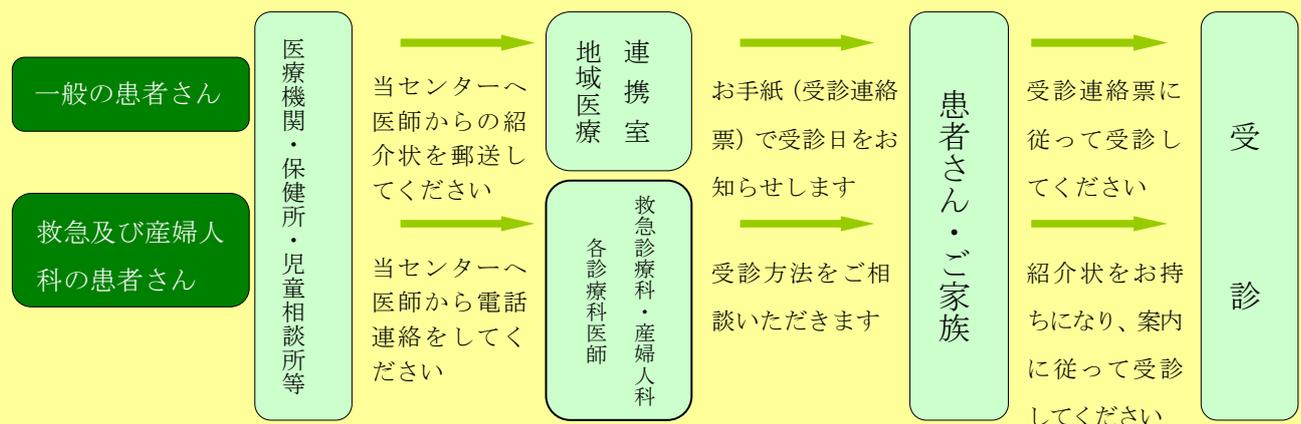
- ☆ 日時：平成26年1月31日(金)18:00~20:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定です

第34回 循環器連携カンファレンス

- ☆ 日時：平成26年2月28日(金)19:00~21:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定です

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/>

